

大阪錦絵新話第12号

兵部省の雇人足某へ同省より内金五円を受けり

歸り其夜寐處の下へ金を置け翌朝立ちこめ此の出張せしが

ト思ひ出り 故馬の家み取りさげせとも更へは此者の娘

七才あるおたづねれば今朝五厘をひらひ菓子を買

買ふとソウおひ早と菓子やあやれと

ぐを語まはれ我も心夜に無をさぐると

又うかつらやをさぐること捜しお

見たりと云くかみ我も圓金を受取

たり否も知らばと賤布をちのけ見

まへ果して首をかきやん

おどろけ是君の所有もかき

五厘も六厘とよ正直あるお感と一朱をばら

是を謝ら若あはの円金あるか無おは名採

仕舞あれとも圓くおちりたるもよ

五円の有金ありて金銭の正直大切を致し

日々新聞
二百五十号出



錦絵

河波文治
赤ト

大阪錦絵新話12号 文庫10-8067-8

早稲田大学図書館蔵 / Waseda University Library

